



2016年1月8日

倒産集計

信用交換所京都本社

15年年間（1～12月）繊維倒産

件数・負債額ともに前年を上回る

▼全国▲ 発生件数＝457件 負債額＝1022億6900万円

2015年の全国繊維業者の倒産（負債1000万円以上＝整理・内整理含む）は457件発生し、前年比18件（4.1%）と8年振りに前年比増加に転じた。

負債額は1022億6900万円で、前年比186億1000万円（22.2%）の増加。2014年は負債額900億円を下回ったが、当年は再度1000億円台になっている。

負債額100億円以上の大型倒産は、2013年の1件以来発生せず、50億円以上も0件（前年は1件）に終わったが、10億円以上50億円未満は㈱アートヴィレッチ（東京都墨田区、カジュアルウエア製造小売、負債額40億7500万円）、㈱アウトバーン（東京都荒川区、紳士カジュアルウエア卸、同31億5000万円）、㈱吉利（東京都台東区、呉服・和装小物卸、同22億8100万円）など19件（同14件）が発生したことで、若干ながらも負債を押し上げる結果となった。ただし、近年と同様に総じて中小零細の小規模倒産が多数を占めたことには変わらない。

2015年は年初から前年の消費増税の反動や物価上昇に伴う個人消費の低迷、円安基調に伴う原材料の高騰などもあり厳しい経済環境となったが、5月にはバブル期以来の株価高騰、訪日外国人客のインバウンド効果に支えられ、高額品の売れ行きが堅調に推移するなど、一部で明るさが見られた。

しかし、2014年は0件であった上場企業の破綻も、スカイマーク㈱、江守グループホールディングス㈱、第一中央汽船㈱の3社が発生したほか、日本を代表する大手企業の偽装・虚偽問題、不祥事などが相次いで表面化し、国内経済に大きな影響を与え、また、中国経済の減退やその他国際情勢の変化も大きかった。

繊維業界においても、海外生産品の仕入価格上昇や国内生産回帰が思うように進まず、気候要因による夏物の販売不振に続き、11月以降冬物の出足が鈍く、衣料全体の消費回復には至らなかった。こうしたことを背景にグループの統廃合やリストラに取り組む大手企業の増加やM&Aなどによる業界全体の再編も加速し、厳しい環境が続いた1年であった。

2016年は金融円滑化法終了後の暫定リスク期間3年も終了し、今後業績が改善しない中、リスクにより事業を継続してきた企業が破綻に向かう可能性もあり、また2017年4月の再増税を控えた消費・経済動向も予想がつきにくく、先行きは楽観できないものと見られる。

業種別では「小売商」が181件で全体の39.6%を占め、次いで「紳士・婦人・子供・被服製造卸」115件（25.2%）、「ニット製品・洋品雑貨製造卸」61件（13.3%）と、この3業種で全体の78%を占めた。以下、「その他」48件、「呉服・和装製品製造卸」15件、「寝具・インテリア製品製造卸」11件、「織物卸」「織物製造」各9件、「染色整理・特殊加工」4件、「糸及び原料卸」3件、「紡績・撚糸製造」1件と続いた。

原因別では「業績ジリ貧」が392件と80%以上を占め、次いで「業況急変」30件、「資金力薄弱」18件などとなった。

▼京都▲ 発生件数＝23件（前年35件） 負債額＝29億6900万円（前年39億3300万円）

▼滋賀▲ 発生件数＝7件（前年2件） 負債額＝3億3900万円（前年3億3300万円）